

住まいるアップ・ニュース

第4号

2010年11月15日発行

暮らしの支援

有限会社 支心 取締役（住まいるアップ委員会 事業者代表委員）

川本 俊憲

高齢者を中心とした暮らしの支援を始めて5年が経過しました。その中での取り組みと課題を考えてみたいと思います。

取り組み

1. 終の棲家としての役割。高齢化や疾病による心身の変化に対応する。緊急時の対応、買い物、食事、洗濯等日常生活支援、ターミナルケア等の対応。
2. 入居者全員が家族意識を持ち相互に支援していく。年々重度化していく入居者に対し、各種福祉サービスの紹介、提供を行うとともに、入居者相互の助け合いを助長していくよう配慮している。
3. 入居者と地域とのかかわり。入居者全員、町内会会員として登録。介護予防教室、地域交流の拠点としてスペース開放。管理者は町内会役員として地域活動参加。町内会役員会、各種委員会についても同様に施設の提供を行っている。地域の子供たち、高齢者との合同行事の開催などを積極的に取り入れている。



課題

1. 家族との接点。元気なうちは本人の意向を反映できるが、トラブル、入院等についての協力体制を作ることには時間がかかる。
2. 自由な環境を保障。生命の危険に関すること以外は、一切の管理をしていないが、リスク問題を全て本人の責任とは言い切れないジレンマがある。
3. 年齢を問わず、地域のたまり場としての機能を果たしていきたい。

今後も、入居者ひとりひとりが、「生きている」という実感を伴った場の提供を心掛けていきたいと考えています。

— 目次 —

□暮らしの支援	…1
□第3回事業者勉強会を開催しました	…2
□入居者アンケートの御礼	…3
□いきいき健康福祉フェア	…3
□第4回事業者勉強会のご案内	…4
□ホームページ開設	…4
□編集後記	…4

第3回事業者勉強会を開催しました

「安心・快適住まいのアップ事業者勉強会」の第3回を、10月14日午後、札幌エルプラザ大研修室にて開催しました。今回は、事業者や関係者を含めて37名の参加となりました(第1回は50名、第2回は38名)。以下、当日の様子についてご報告します。

【小規模多機能型居宅介護の可能性～入居者のニーズに応える経営のマネージメント～】
石田幸子氏(榊楽明館 代表取締役 館長)



まず、自己紹介および最初の小規模多機能型ホームの開設から、今年開設した事業所まで、楽明館における事業運営の経過の説明がされました。その後、事業者連絡会作成のパンフレットを使い、小規模多機能でできること、一般の介護事業所との相違点などの説明が行われました。実例を通して、高齢者対応共同住宅を併設することの事業運営上のメリット説明や、介護事業所が併設されていない一般の高齢者対応共同住宅との連携について触れ、講演を終了しました。

【質疑応答】

【参加事業者の意見交換会】

質問および発言は、概ね次のとおりです。

- ・ 準備期間や資金の用意等で苦勞したこと、経営状態について
- ・ 住宅の食費・宿泊費・日常生活費の料金と、経営上のメリット・デメリットについて
- ・ 入居率の損益分岐点について
- ・ 単独型と住宅併設の小規模多機能の経営上の違いについて
- ・ なぜ小規模多機能は増えないのか
- ・ 要支援の方がどのくらい利用されているか。毎日泊まっている方の比率はどのくらいか。職員への教育、研修はどのように行っているか。
- ・ 建物の契約期間、契約方法について
- ・ 具体的な、地域とのつながりについて



小規模多機能の運営者や来年開設予定の担当者の参加もあり、運営に直結したやりとりで、大変熱っぽく活発な質疑応答となりました。また、席配置を対面型から口の字型に変更したことも、発言しやすい場になったと考えています。また、参加者からの提案により、各事業所のパンフレットを持参いただき、自由に持ち帰っていただくようにしたところ、積極的に持ち帰る姿が目立ち、他事業所への関心の高さも伺えました。今後も継続したいと思います。

【参加者アンケートより】

参加者の中から21名の方々にアンケート回答をいただくことができました。講演についての感想は、「大変良かった」「良かった」をあわせて90%（19名）でした。また、事業者意見交換会については「大変良かった」「良かった」をあわせて57%（12名）でした。講演が、直接現場にかかわっている方の具体的な内容だったことと、それに対する質疑応答が意見交換会の中心となったため、参加者の関心に応えることができたのだと考えます。今後も、事業者間のネットワーク構築へ向けての取り組みのひとつとして、実施方法を改善しながらぜひ続けていきたいと考えます。

【参加者アンケートより

～勉強会に参加した感想・意見等 自由記入】

- ・大変有意義な会であり、また参加させて頂きたい。
- ・今後のためにとっても参考になり、わかりやすくよかったですと思います。地域の方々とどのようにして信頼関係を得ることができるのかをもっと考えるかが私の事務所の課題としますので勉強会がある際にはぜひ参加させていただきたいと感じました。ありがとうございました。
- ・小規模多機能についてもっと勉強したいと思います。本日は本当に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・現在、医法、事業者にアプローチしていません。大変勉強になりました。

入居者アンケートの御礼

事業目標のひとつである「入居後の生活状況・課題・ニーズなどを把握する」ことを目的とし、高齢者対応共同住宅の入居者の方々を対象としたアンケートを、9月22日から11月4日まで、約1ヶ月間にわたり実施いたしました。9月上旬に、236事業者様へ協力を依頼したところ、52件の事業所から、194名の入居者の方々にご協力いただきました。お忙しいところ貴重なお時間を頂戴し、誠にありがとうございました。

これから、アンケート結果の集計に取りかかり、今年度末には報告書にまとめ、情報発信に役立てていく予定です。

いきいき健康福祉フェア

10月15～18日にアクセスサッポロで開催された「いきいき健康福祉フェア2010」において、札幌市保健福祉局保健福祉部の“高齢者共同住宅に関する相談コーナー”のお手伝いをさせていただきました。



多くの方々がご来場になりましたが、高齢者共同住宅に関する相談コーナーにおいても、立ち止まってパンフレット等をご覧になる方が多く、関心の高さがうかがえました。

第4回事業者勉強会のご案内

第4回勉強会は、北海道社会福祉士会の柏浩文氏をお招きし、『入居者サービス向上のためには～事例から考える』と題して、高齢者対応共同住宅で生活している方の事例をもとに、日常生活自立支援事業及び成年後見制度を中心とした権利擁護の視点からお話しいただきます。共同住宅におけるサービス向上を考える機会になれば幸いです。(参加無料)

- ◆日時:2010年12月10日(金)
13:00開場 13:30開演 15:30終演予定
- ◆場所:札幌エルプラザ4F 大研修室BC
(北区北8条西3丁目)
- ◆講師:柏 浩文氏(北海道社会福祉士会会長)
- ◆内容:入居者サービス向上のためには
～事例から考える～

※別途ご案内と参加申込書を同封いたしました。



【ホームページ開設準備中】

当ニュースレターは、高齢者対応共同住宅の事業者の皆さまへの情報発信ツールとして定期的に発行しておりますが、より広く情報をお届けするため、現在、ホームページ開設の準備を行っております。完成次第、当紙でもご案内する予定です。



— 編集後記 —

冬の気配が感じられる季節となりましたが、「安心・快適住まいるアップ事業ニュースレター」も、第4号の発行を迎えることができました。

さて、次号のニュースレターは、新年1月15日発行予定です。落語家林家とんでん平さんをお招きしての市民セミナーのご報告と、第5回事業者勉強会の開催案内をお届けする予定です。お忙しいとは存じますが、皆さまには今後ともぜひ、情報交換等にご参加くださいますよう、よろしくお願いたします。

安心・快適住まいるアップ事業

札幌・住まいるアップセンター(シーズネット内)

TEL 011-708-8567 FAX 011-717-6002

※本ニュースレターのメール配信をご希望の方は、下記アドレスまでご連絡くださいませ。
info-suc@seedsnet.gr.jp

～新時代を創る高齢者の経験と活力ネットワーク～
SEEDS NETWORK

Seniors' Experiences and Energies for Developing New Systems

高齢者による新しい仕組みづくりの種になりたい、そんな気持ちを込めました。



NPO法人シーズネット

〒001-0010

札幌市北区北10条西4丁目1番地 SCビル 2F

代表 TEL 011-717-6001 FAX 011-717-6002

<http://www.seedsnet.gr.jp/>

— その他の事業 —

さっぽろ孤立死ゼロ安心ネットワークモデル事業

さっぽろ孤立死ゼロ推進センター(シーズネット内)

TEL 011-708-8686

ひとり暮らしのあなたに、安心をお届けします

おひとりさまあんしんnett事業(シーズネット内)

TEL 011-717-7007

高齢者の住まいるの情報センター

住まいるサッポロ

〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目2-5 北尾ビル 8F

TEL 011-252-2424 FAX 011-252-0220